

尼市派遠軍出発時期圖六件

0295

3-6  
朝

將校手渡

海軍

軍務局長

第一課長

局員

明日(三月二日)

覽書

(海軍陸軍大臣ヨリ閣議ニ説明資料)

尼市派遣軍出發時期ニ關スル件

極祕

供覽

備考

可ナリト認ム

明正印刷納

0296

海軍

一、派遭軍及掩護艦，所在

陸軍派遣部隊八陸軍運送船四隻、軍船小樽港に在り侍

命中ナリトヨノ、國裏ニ居留邦民保護、爲北樺太西岸ニ派遣

廿三日、見島ノ二艦、水原航海、危險。自月レ二月七日辛レテ、風降。

海相距十里，正無“井”也。以西諸水，為北上之，得之而已。得之

並處南約廿哩  
引將枝通譯等々並市ニ派遣シ所謂其

命政府為事者卜會見，上居留邦民，安全，保障，七等相

海

軍

商、手段、執り他方於テ水原航海及飛行偵察等ノ手段

又テ派遣軍隊上陸地點「テカナリ」湾「進出航路並南

北樺太西岸於テ上陸地點、偵察ヲ行ヒ兩艦炭水補充

爲二月未一下先ツ小樽取着、目下全地、在テ待命中、

二國方面結氷、狀態、及上陸地點

兩艦偵察報告依ヘ海上結氷、狀態、大要附圖

通ミシテ「テカナリ」湾、進航、到港不可能ナウトガア即、兩艦

依テ

(明正印刷納)

及陸軍派遣軍指揮官等ハ小樽於ノ會合協議、結果派遣軍

吉部隊、上陸豫定地点トシテ邦領樺太ナル久春内ヲ、非御限

以將校乍候リ、上陸予定地点トシテ「カグネヲ  
〔西博南約半哩〕」ヲ選定セラ

三、派遣軍尼市到達豫定期

(1) 結冰期於ケル派遣軍行動

派遣軍指揮官、決心依レバ左如レ

(2) 指揮官、其部隊(歩兵約一中隊、山砲二門)又附屬隊ヲ直率ニ

(先発)

路

久春内ヨリ眞縫<sup>ミツメ</sup>ニ<sup>ノ</sup>歸<sup>ス</sup>、<sup>ノ</sup>樺太中央道ヲ北上至市

(明正印刷納)

海

軍

總出來得ニ限リ北上尼市ニ向ハントス但亞市以北進ル路ナ

狀況未詳ナリニ市到達期日豫定スル得ス

(三)先發隊ハ先發隊ニ統行スル目標トニテ行軍レ要スヒ

亞市ニ駐屯セヨ、其ニ市到達期日全然未定ナリ

(附圖 參照)

(註)今小樽發ヲ三月八日ト仮定シ尚假想行軍カラステ概算算ナハタ如レ

隊名	小樽發	人番吹着	仝上發	百十里	亞市着	尼市着
先發隊	第一日 (三月八日)	第三日 (三月十日)	第四日 (三月廿日)	百十里 一日四里	百六里	百四里
主力部隊	第二日 (三月九日)	第三日 (三月十一日)	第四日 (三月廿一日)	百十里 一日四里	百六里	百四里

主力部隊、同官客海坂徒歩ハ五月六日ヲヨリ行固難ナル

(明正印刷納)

(四)解冰期於乍派追軍，行動

海軍

軍スルモトセハ大約丸如レ		テカストリ一湾ニ上陸マリレスノア經以右概木里龍江ニ沿ヒ行	
小樽發		テカストリ一湾着	
第一日 (四月廿五)	主ク尼市着	一日 (四月廿五)	主クニ市着
第二日 (四月廿六)	立月十八日頃	二日 (四月廿六)	主クニ市着
註間宮悔峠方面水路状況ニ依リテハ 水路有船ニシテ	主クニ市着	三日 (四月廿七)	
上陸シ得レヒ陽合テカストリ一ノ所二日、在尼市 ニ着スルヲ得ヘレ			

四、尼市情勢・変化

(1) 増援軍派遣決定當時(二月中旬)、情勢

大正八年ヨリ漸次勢ヲ増セル過激派軍ハ本年一月未下旬

誠其行動活潑トナリ

又過激派露軍ヲ過軍ニ投降スルニ及ビ尼市過軍包围

ニ陷リ海軍無線電信所ハ敵砲火ノ爲破壊セシ全隊

員ハ砲台守備ニ任セレ陸軍ト共ニ尼市駐屯陸軍主力ニ合

レ居留邦民自衛團ト共ニ尼市防衛ニ当リ過軍ト對抗

海軍

軍

(明正印刷納)

0302

海

軍

セリ 斯、サクシテ 二月六日 我無線電信所破壊以來 全

方面ト、通信全々絶、我軍及居留邦民ノ安危亦全然不明

、従リシテ以テ緊急之ヲ救援ス、必要ヲ認ノ所要兵力ノ

派遣決セリ

(四) 現今、情勢

進ニテ

然ル、我西伯利派遣軍、必スニモ過軍ヲ攻撃ナルノ意アル

ニアラ、趣旨在近市我軍又過軍ニ通スル、及び我陸軍

(明正印刷納)

海

軍

守備隊ハ過軍、講和提議ヲ答シ二月廿四日戰闘ヲ中止シ

タリ尙全守備隊長報告依ニ一月無事ナド古フ

## 五、結論

(左程)

前項情勢依リニ観ルニ現下、形勢ニ於テ緊急救援ノ

必要ヲ認ソサヘトキ、今俄ニ露領構入ニ成兵六千揚陸セレタルトキハ

沿海州又構太方面ハ過激派ニ、再び暴行ヲ挑發レ且

戎對外關係ヲ不利ナシケルノ處アルノミナズ所要、兵力ヲ

海軍

尼布楚遣スルヨリ甚困難ナリヨトニ偏スルタマノ派遣軍ノ  
立候今暫シテヲ見合セ今後形勢之ヲ要スト認ムハ  
於テ解米朝入り急遽所要兵力ヲ送遣スルニ如カヌド忍ム

軍務局長

第一課長

海

軍

尼市派遣陸軍屯衛地ニ般リ待命令件

ノ深キ印門事ニ印船並ニ便函をアシムシテ

二二二一

0306

- 右付陸軍者側、内令セキ處、備中佐ヨリ在役要録面合アリキ。（チカヒル）  
一、尼市派遣軍又「デカホドー」守備軍ニ編制シ解カレズ  
二、「デカホドー」上陸不許、は促シラタケ在軍、其也傍地、取リ  
暫ミ、模様ヲ見ニエトニ定立セリ（發令セシヤ否ヤ、マダ知ラズ）  
三、今後形勢ニ変化ナシ、當即軍ヲ去ス需アシニハ解ヒ候

批送立トトナリ

（明正印刷納）



馬

大正九年三月八日

軍令部一班

海軍

ニカライウスク陸軍派遣隊一件  
三月八日朝參謀本部ヨリ電、話左通  
ニカライウスク派遣隊ハ出發シ見合ハセ別命アル迄其  
屯營地ニ在リテ待機又運送船ハ解散ス一キ上旬六  
日午後發令セラ

(終)